
【三題噺】拝啓、蛭様

うるる

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

【三題噺】 拝啓、蛍様

【Nコード】

N1318W

【作者名】

うるる

【あらすじ】

「文学少女」シリーズより三題噺

お題は【蛍狩り】 【明滅】 【ウイंक】

大好きな少女を亡くした少年のお話

お題【蛍狩り】 【明滅】 【ウイंक】

親愛なるあなたへ

季節は巡る。何に捉われること無く。

命は廻る。私達の知らない場所で。

さて、今年も蛍狩りの季節がやってまいりました。

今年も、いつもの川で蛍は綺麗に飛んでいますよ。

でも、私の心は相変わらず死に掛けた蛍の様に弱々しい光を明滅させています。

何故なら、心の蛍はいつまで経ってもあなたを見つけることが出来ないから。

いや、もうあなたを見つけないことなんて出来ないとは分かっているんだけどね。

きっとあなたは私のこんな微弱な光よりも、もっと煌々とした、神々とした世界に行ってるんでしょうから。

どうして…どうして私を置いて、一人でそんな世界に旅立ったのですか…！？

「私ね、きっと蛍の生まれ変わりだと思うんだ。」

蛍狩りにまだ隣にあなたが居た時。そんなのを話していたのを覚えていますか？

その言葉を述べた時。周りは明るい蛍が飛んでいるに、

その中であなたの顔だけが暗くなつたのを覚えていますか？

「蛍つてさ、大人になつたらすぐに死んじゃうよね。」

その死ぬまでをさ、必死に奥さんを探して子供を作るんだよね。」

そう。だからオスはメスに必死にアピールしているのがあの明滅す

る光だと言われている。

「でも…もし誰にも気付いてもらえなかったら、蛭はただ…死んじやうだけなのかな？」

あなたが言ったその言葉。私にはとても、とても重かった。それが蛭に例えたあなたの事だと確信したから。蛭とあなたのリンク。

私はあの時、しばらく黙り込んでしまいましたね。

上手く言葉を返したいのに、上手く返せない言葉であつたから。その間も蛭は廻る。命の投げ所を求めて必死に、必死に。

あなたも巡り始める。私の答えを求めて私の周りをぐるぐると。そして私の目の前に来た時、私は確かこう言いましたよね。

「そうかもしれない。そうなのかもしれない。」

と。でもこれだけじゃない。こう付け足したね。

「でも、蛭は最初っから最後まで死ぬことを考えていないと思うよ。」

だから

その後の言葉が大事だったのにあなたのキスに邪魔されてしまったのを忘れません。

いや、あなたはその後の言葉をもう分かっていたのでしょ。

そして、一瞬戸惑う私にウィンクして笑ったその顔。絶対に忘れません。

私はそれを噛み締めるようにしながら、あなたを抱きしめました。

「ありがと。私…私、絶対に死んだりしないからね…!!」

あなたの命はとても儚かった。もう何年前の話になるのだろう。それから私はずっと一人で蛭狩りだ。その度に儚さを噛み締めるんだ。

季節は儚かった。いつまでも蛭のいる季節にして欲しかったのに。蛭は儚い。それは最初から成り立っているよ。それが蛭の運命なの

だから。

でもその儚さも、薄れ行く感情と共に何かが見えて来た気がするんだ。

そう。蛍狩りになるといつもあなたは私の傍にいませんか？

落ち込む私に、かつて生きていた頃のあなたがしていたかの様にウインクをしていませんか？

明滅する蛍の幻かもしれません。

でもあなたは私の中で生きている事がようやく、何となく分かってくた気がします。

だって蛍はあなたじゃないですか。

必死に生きる姿はまるであなたそのものでしかありませんじゃないですか。

それに気付いた私の心の蛍の明滅はようやく無くなろうとしています。

ありがとう。

さあ、もっと輝こう。

もっと生きよう。

私より、愛を込めて

（後書き）

今回は反復・繰り返しを用いた手法を多用しました。

そして内容は愛と死でしょうか。深いですね。

基本的に成就する恋よりも、別れた後の行方を描くのが好きです。

そちらの方が色々要素を用意できますからね。

女の子の名前は別に蛭ちゃんでも。

…ちよつとシチュエーション違いますかね（笑）
でわでわ。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1318w/>

【三題噺】拝啓、蛍様

2011年10月4日22時17分発行